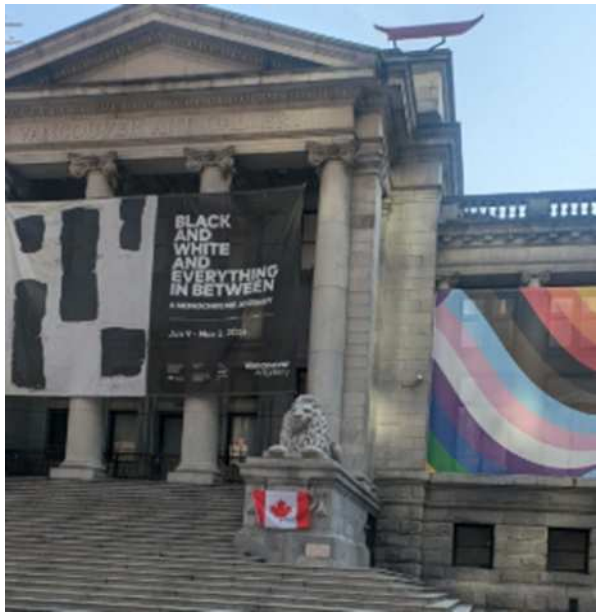
ふじのくにグローバル人材育成事業　報告書

| 参加したコース | ふじのくに地域探究コース<br>（多文化共生・多様性コース） | | | 訪問国 | カナダ | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校名 | 静岡城北高校 | 氏名 | 安田こころ | | 学年 | 3 |

私は、「LGBTQ+に最もフレンドリーな国、カナダから見る日本がLGBTQ+フレンドリーな国になるために必要な考え方は何か」をテーマにカナダのバンクーバーに３週間、留学しました。この成果報告書では自身の探究を通してわかったこと、気がついたこと、また留学生活を通して印象的だったことを書きます。

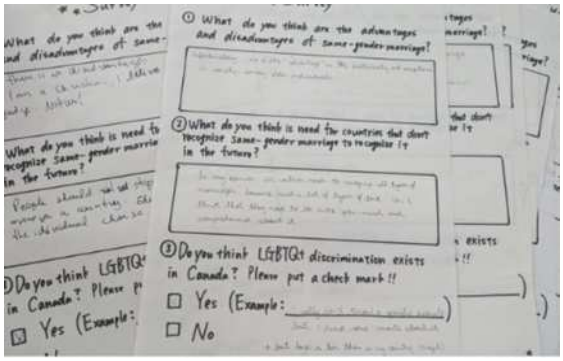
まず、私がLGBTQ+をテーマに留学しようと思った理由には自身の過去の経験が大きく関わっています。私は中学一年生のときに自身が性的マイノリティであることに気が付き、友人にカミングアウトしました。しかし、その後アウティングを受け自身のセクシャリティを理由に中学校三年間いじめを受けました。この経験から私は自分のようにセクシャリティを理由に差別やいじめを受ける人を少しでも減らし、日本をLGBTQ+フレンドリーな国にしたいと思い、LGBTQ+をテーマに探究を始めました。中学一年生から探究をする中で日本でのLGBTQ+に関する情報の少なさを感じ、海外でより探究を深めたいと思い留学を決意しました。

カナダ、バンクーバーにはレインボーフラッグが至る所にありました。バンクーバー国際空港に着いてすぐにカナダ国旗とともにLGBTQ+のフラッグがあり、大きな公共施設にもLGBTQ+フラッグがありました。そのLGBTQ+フラッグはただのレインボーフラッグではなく”Progressプライド・フラッグ”というブラックや２スピリットも含まれた最新版のフラッグで、LGBTQ+先進国だなと感じました。フラッグだけでなく公共施設に置かれているモニュメントなどもレインボーで、国としてLGBTQ+フレンドリーに努めている様子が多く見られました。私が最も印象に残っている国としての取り組みは飲食店や雑貨屋さんなど９割のお店にLGBTQ+フラッグのマークといっしょに”NO Space for Hate”という文字があるステッカーが貼ってあったことです。




LGBTQ+当事者としてカナダの国としての取り組みを受けて、日本では感じたことのない安心感を感じたし、マイノリティが尊重されている気持ちになりました。

国としての取り組みは以上のように素晴らしいものばかりでした。しかしバンクーバーに住む人の考え方は国の取り組みとは少し違いました。私は探究方法として街頭インタビューと紙媒体でのアンケートを行いました。街頭インタビューでは「（LGBTQ+関連の）質問には答えたくない」、「興味がない」など消極的な人が多くあまり良い結果は得られませんでした。アンケートではLGBTQ+に対する差別はカナダにもあると思いますかという質問に対し、3割の人が「ある」と回答していました。これらの結果から、私は国の取り組みとそこに住む人の考え方が必ずしもイコールではないということがわかりました。

探究中だけではなく、実生活でもそれを感じた瞬間がありました。語学学校やホームステイ先で私がセクシャルマイノリティであることをカミングアウトしたときに、中には「変だ」、「気持ち悪い」と言う人もいました。

探究と実生活の経験から「差別のない国や地域なんてないんだな」ということを改めて理解しました。